

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
○ 自ら学び、豊かでたくましい心身を育み、自己実現をめざす生徒の育成 ～凛々しく生きる塩中生をめざして～ ※ 学校スローガン 学校は「楽しい」ところ、 学校は「学ぶ」ところ、 学校は「鍛える」ところ	①校内研究を充実させ、学力の定着と向上を図る。 (授業力向上、家庭学習習慣の定着) ②道徳教育・人権教育を充実させるとともに、特別支援教育に対する意識も高める。 ③地域に根ざした学校づくりを推進する。

達成度  
A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価									
① 校内研究を充実させ、学力の定着と向上を図る。								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
学校運営	○教職員の資質向上	・授業力の向上	・全員参観の授業研究会を年3回実施する。 ・全職員、指導略案を作成し授業を公開する。	・学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫をする。 ・年間計画を5月末までに作成し、月行事(週行事)予定に記入する。 ・授業参観シートを活用し、参観の視点を絞る。	B	・全教科共通の掲示物を作成し、生徒に授業の見直しを持たせることができた。 ・5月に年間計画を作成し、計画的に校内研究を実施することができた。 ・授業研究会及び全職員による公開授業を行うとともに授業参観シートをもとに意見交換を行い、指導力向上に努めることができた。	・通常の授業の合間に公開授業を参観することは困難なようである。研究授業についても多くの意見交換ができるように研修会の在り方を検討する。	A	・空き時間の活用などの工夫をしたほうがいい。 ・全員実施ではなく、グループでの実施はできないのか。 ・多様な取組により、アンケートにおいても「大体あてはまる」を入れると高い評価が得られている。 ・教科混合のグループをいくつか作り、グループ授業研究を行うことが上峰中でも実践されていましたので、参考になるのではないのでしょうか。 ・授業参観シートの活用は有効だと思います。生徒の意見も含めた授業評価システムを活用しているところもあるようなので、研究してみてもどうでしょうか。 ・通常時間帯に公開授業を参観することは困難であると思われるので、生徒には自習させるぐらいの大胆な発想に立つことも必要ではないか。 ・計画的に事研究授業が実施されていると思う。 ・教職員の意識の向上や実践が、評価のポイントを上げたと思う。今後も生徒が理解しやすい授業を進めていただくことを希望する。
教育活動	●学力向上	・家庭学習習慣の定着	・定期テスト前に家庭学習強化週間を年4回設ける。 ・自学ノートの取り組み方について各クラスで指導する。 ・朝の活動時間に、朝読書の時間を設定して毎日取り組ませることで、家庭学習の習慣化を図る。	・家庭学習強化週間の前に、計画表を記入させ、個々に対応したアドバイスをする。 ・自主学習ノートの取組のよい記入例を生徒に紹介する。 ・国語・数学・英語の補充学習や朝読書の実施を通して、家庭学習の習慣化に繋げる。	B	・定期テスト前の計画表の記入及び記入内容の確認ができた。 ・自主学習ノートは、学習内容の充実したものを掲示したり、学年・学級通信等で保護者に発信できた。毎日提出はできているが、毎日同じ内容の反復であったり、イラストのみの記入であったりとノート指導が必要な生徒も多い。 ・朝読書の取り組みは充実してきた。	・自主学習ノートの提出はできるようになってきたので、学習内容の充実を図る。	B	・提出が習慣づいたことは大変よい。 ・家庭学習の習慣化が図られ、実際の活動に生徒の良し悪しがあると思うが、全職員で実施できたのは意義があると思う。 ・教職員の評価ポイントが上がっているが、生徒と保護者の評価が幾分下がっているのが気になる。今後も自学ノートの利活用についての指導をお願いしたい。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・ICTを利活用した授業の実践	・各自ICT機器を年間10回以上利活用する。 ・ICTを利活用した授業を受けることが楽しいと感じる生徒の割合を80%以上にする。	・電子黒板の利用調査を年2回行う。 ・ICT利活用についての各種研修会を年2回行う。 ・ICT機器の配置を検討する。	B	・学校評価アンケートの結果、パソコンや電子黒板を使った授業が好きであるという質問に対してよくあてはまる、大体あてはまるの合計が90%を超えており、ICT機器を効果的に活用することができている。 ・利活用した職員も1回目より2回目のアンケート結果の方が増加している。	・タブレットPCの内蔵電池が老朽化しているため、電源が突然切れてしまう。その対応策を工夫すれば、もっと使いやすくなる。	A	・電池の老朽化等、すぐできることはすぐ取り組む。 ・授業参観の折、効果的に楽しく活用されていた。 ・ICTを使ったというアンケート結果が90パーセントを超えており、職員の意識も高まっているように感じる。 ・電子黒板は時代の流れではないが、子供たちの視力の方は大丈夫なのか。 ・理解力を図る上からも、ICT利活用は有効であると考えられる。積極的活用をさらに推進していただきたい。 ・教職員のICTの活用が増えており、生徒もPCや電子黒板の授業が好きであるという評価ポイントが上がっていることは好ましいと思う。タブレットやPCの老朽化については、予算対応なので早めに市への申請も必要と思う。
② 道徳教育・人権教育を充実させるとともに、特別支援教育に対する意識も高める。								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●いじめの問題への対応	・早期発見・早期対応体制の充実	・いじめ認知「0」を目指す。 ・実態把握のために月に1度、「生活アンケート」を実施する。	・学活ノートの点検による問題の早期発見に努める。 ・教育相談やQUテストを活用して早期発見を図る。 ・SCと連携を図り、可能な範囲で計画的に構成的エンカウター等の授業をTTで実施する。	B	・学活ノートの点検や月1回の生活アンケートは全校で取り組み、早期発見・早期対応に努めることができた。全職員への共通理解も行い、いじめ防止への職員の実践は3.8と高まった。 ・定期教育相談やQUテストを活用し、生徒の実態把握に努めた。 ・SCとの授業はできなかった。	・具体的な向上策として、人権集会等で「いじめ防止」についての取り組みを行い、生徒の「いじめ」に対する意識の向上を図る。 ・定期教育相談とQUテストは継続して行っていく。	A	・いじめは「0」になるのでしょうか。 ・学活ノートの活用はデリケートな面での配慮ができており、早期発見・対応に全職員が共通理解のもと取り組まれていると感じた。 ・改善策にもあるように、生徒会等で生徒自身にいじめ問題について考え取組ませることは、大切なことだと思います。 ・自分の子供が人の悪口を言うと、それは言うてはいけないうときつく論ですが、こういう家庭でのしつけが「いじめ」防止につながっていくと思う。 ・今日の社会全体をみても、いじめによる生徒の自殺が多い状況です。「いじめ」が生徒の自殺につながらないために「いじめ防止」の意識向上を図っていただくように希望する。

学校運営	○特別支援教育の充実	・教職員の意識の向上	・特別支援教育に関する研修会を行い、意識が向上したと感じる教職員の割合を80%以上にする。	・年間5回以上のケース会議を開き、支援が必要な生徒の情報を共有して、すべての教職員が対応できる環境を整える。	B	成果としては、特別支援コーディネーターを中心に担当者が密に連絡を取ったこと、生徒指導全体会で支援が必要な生徒の情報を全職員が共有できたことである。職員に向けての研修会の実施により、学校評価アンケートの結果が、第1回3.4から第2回3.6に上がった。課題は支援を要する生徒の課題や目標の共有をし、指導に生かせるようにすることである。	特別支援教育の担当者が個別の教育支援計画、個別の指導計画、引き継ぎシート等を作成し、早めに目標や手立てについて話し合ったり確認したりする場を持つ。個別の教育支援計画、個別の指導計画、引き継ぎシートについては特別支援教育に関わる担当者だけでなく支援に関わる職員が必要に応じて目を通すことができる環境を整える。	B	・支援が必要な生徒の情報が、全職員で共有されていて指導にいかされていると感じる。 ・ケース会議は、かなりの回数行われたと思うが、職員の共通理解がどの程度行われているかがわかりにくい。例えば、週1回生徒についての情報交換会を行うとか。 ・特別な支援を必要とする子は、いじめの被害者にもなりやすいことから、改善策のように情報の共有を進めることは、大切なことだと思います。 ・学習評価アンケートから見ても、教職員の意識の向上がみられており、A評価に値すると思う。特別支援教育の担当者のみでなく支援に関わる職員の方々の連携した指導を希望する。
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実	・年間2回のふれあい道徳の時間を確保する。 ・日頃の道徳授業の様子を月に最低1回は保護者等に紹介する。	・全職員、最低1回は道徳の授業を行なう。 ・学年ごとに道徳コーナーを設置する。 ・道徳の授業を学校便り、学年、学級通信等で、月に1回以上は保護者へ紹介する。	B	成果としては、各学年ごとに道徳コーナーの設置ができた。また、学級通信での保護者への紹介は担任が意識をもって行った。 課題としては、年間2回のふれあい道徳の実施は11月の1回だけに終わった。そして、全職員が、道徳の授業を行うことができなかった。	31年度より、特別な教科道徳が実施されるための準備を確実にすることが必要である。教科書があり評価もしないといけない。そのため、授業時数の35時間の確保と年間指導計画、別業を作成し、31年度に向けて環境を整える。週1回道徳の授業を確保し実施することで、道徳コーナーの設置が充実し、保護者への紹介もできる。	B	・道徳ノートを利用すれば、無理なく授業ができると思います。 ・ふれあい道徳を年2回実施するのは、計画上無理があると思う。 ・教科道徳が目前に迫り、さらに評価を伴い大変だと思う。授業時数確保が重要であろうと思います。 ・教職員の意識の改善や普及・啓発などの取組については評価ポイントが上がっているが、生徒や保護者に対してはあまり変化が見られない。道徳教育は点数化しにくい科目であるため、評価が難しいと思う。 ・道徳コーナーや、通信による啓発は大変すばらしいと思う。

③ 地域に根ざした学校づくりを推進する。 学校関係者評価委員会から

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
学校運営	○学校運営協議会との連携	・学校運営協議会と連携した行事の充実	・学校運営協議会広報誌「凜」を年間3回発行する。 ・各学年それぞれに年間1回、学校運営協議会と連携した行事を開催する。	・学校運営協議会広報誌「凜」の発行。 ・1年生は、「お茶の入れ方」と「盆踊り」に学校運営協議会の協力を仰ぐ。 ・2年生は、学校運営協議会と連携して「職場体験」を実施する。 ・3年生は、学校運営協議会と連携して「お茶会」を開催する。	A	・学校行事に関するアンケート結果は、保護者・生徒とも向上している。「お茶会」については、11月の紅葉に合わせて時期を変更したことも、よい結果が出た要因と考えられる。「盆踊り」「職場体験」についても地域の方の協力を得て、内容の濃いものとなった。 ・学校運営協議会広報誌「凜」の発行はできたが、アンケート結果では大きな変化が見られなかった。	・学校行事の実施「お茶会」「盆踊り」等について学校運営協議会委員の参加も検討していく。 ・学校運営協議会広報誌「凜」について、3回の発行では学校運営協議会の活動内容の理解度が高くなっていないので、発行回数を増やすかA4版2枚から4枚に内容を増やす取組をする。	A	・学校運営協議会と十分に連携しながら学校運営ができていと思う。 ・学校運営協議会は、生徒・保護者にとっては直接的でないで認識も低く、評価点ぐらいたらと推測される。 ・体験学習は、座学とは違い、興味・関心も高くよかつたと思われる。 ・職場体験は大変いい経験になったと思うし、これからもずっと続けてほしい。 ・教職員の意識の向上が見られており、好ましい結果だと思う。生徒や保護者は委員の存在を概ね理解しており、現状維持でよいと思う。(広報誌を増やす等の手立ては、先生の負担増になるのであえて必要ない。) ・委員としては、案内していただく学校行事にはできるだけ参加したいと考えている。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 学校関係者評価委員会から

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●健康・体づくり	・健康への意識向上	・保健だよりやアンケートを通して朝食をとることを啓発し、朝食をとって登校する生徒の割合を90%以上にする。 ・健康教育を通して、段階に応じた生徒一人ひとりの心身の健康・増進に取り組む。	・保健だよりを通して、基本的な生活習慣(朝食・睡眠等)について保護者に啓発する。 ・生徒会活動(保健・給食)を通して、生徒自らの意識を高めさせる。	B	・保健だよりによる啓発や生徒会による生活習慣アンケートを実施したが、朝食や生活習慣について改善はあまり見られなかった。 ・外部より講師の先生に来ていただき、各学年段階に応じた健康教育を行った。	・啓発活動やアンケートを継続して行っていく必要がある。	B	・生活習慣の確立は、生徒会を中心に生徒も参加し取り組み、アンケートの結果もよい。 ・どんなに朝早くても、「朝食は大切」と言って食べるようにしているので、朝食を食べる習慣が身につけている。 ・朝食の摂り方については生徒・保護者ともに3.8の評価で変化もなく、現状維持でよいと思います。基本的な生活習慣については、今後も啓発活動やアンケートの実施により意識の向上を図る必要があると思う。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

第1の重点目標である授業力向上については、職員の評価が概ね0.2ポイント上がっているのに対して、生徒・保護者の評価があまり変わらないか、0.1ポイント下がっている。職員の意識の向上が十分に生徒に反映されるよう、学習状況調査やCRTの結果を分析し、授業力が向上するようさらに研究を深めていく。また、生徒用アンケート「わたしにとって、学校は楽しいところである。」項目は3.6ポイントと高い数値を維持しているので、いじめ問題への対応や心の教育の項目についてもさらに改善を図っていく。  
学校運営協議会委員の方から「目標と方策が混同しているように思える。」という指摘をいただいたので、来年度の取組について生かしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目